

夢っくすニュース

No.6

2004年3月31日

UMEX NEWS UMEX NEWS UMEX NEWS



裸押し合い祭り

坂西 由紀子

2月27日に開催したサロンの恒例行事、地域伝統文化紹介の一つ、「裸押し合い祭りの巻」は、まるで前夜祭でもあるかのように唄あり、踊りあり、笑いありのにぎやかなうちに終わりました。

講師の羽賀正道さんは中学校の国語の先生。美術科教師を思わせるうまさで祭りの様子を絵に描きながらの紹介です。日本人にもわかりにくい親父ギャグと、外国人にも通じ難い英語を交えながらの熱弁。少し間をおいてからの笑いの渦。ギャラリーとのコントラストが何とも面白く、また「サンヨ節」の踊り子（羽賀さんの母上）の登場と、裸押し合い祭りルックの披露もあり、サロン初の光景、多様な発表の連続でした。

国際大学の渡辺先生は、実際に押し合いに参加し、内陣に上がりご本尊を拝んだ経験の持ち主。祭りのクライマックス「ささらすり」の講義をいただきました。渡辺先生は地元民から聞きとりをし、ささらすりの唄を英訳してしまうほど。祭りの由来等にもとても詳しく、住民顔負けの「ささらすりオタク」。「祭りは10時半からのささらすり」と英語で何度も何度も力説されていました。（英語はよくわかりませんが、そう感じました。）

最後に「ささらすりの唄」を渡辺先生が声高らかに唄い、通訳の学生野田さんと羽賀さんのコンビが肩を組んで踊り、井口会長宅からお借りした家宝の「ささら」で音頭を取り、参加者が手拍子と合いの手を入れ、サロン内が一体となり、気分はほとんどお祭りです。その後、名物のしんこもちと笹アメをいただき、和やかに、にぎやかにサロンを閉じました。

サロンでの紹介の成果は、祭り当日の押し合いへの参加者と見物に訪れた学生の多さで実感できました。ほかにも、会話パートナーを祭りに招待する人、サロンで知り合った学生の家族にご馳走を届ける人、また、「サロンに参加したら、ささらすりを見に行きたくなった」という学生の要望に応じて車を出してくれる会員がいたり、とてもうれしく思いました。

こうして、一つの行事が単発で終わるのではなく、確実に交流の輪が広がっていることが何よりも「夢っくす」のめざしているところであり、大変うれしく思います。

サンヨー、サンヨー…裸押し合い祭りレポート

ハウさん(ベトナム)

Before coming to IUJ, I already heard about the Naked Man Festival. To me, it was just one of the many Japanese festivals. It has however totally changed after I attended the presentation on the Naked Man Festival organized by UMEX on 27 February.

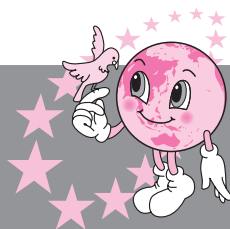
The presentation was mainly on the origin of the Festival. We got to know about the Bishyamonten God, the IGUCHI family, BANZAI family - all major characters of the Festival. Looking at animated sketches of Mr. Haga, we were even able to have a good imagination of how the Festival is going to be.

And the presentation became really inspirational when Professor Watanabe joined to talk about the Sasarasuri Song. I was told by Takeda-san before that there are many IUJers who love this festival, but there is no one who loves it more than Prof. Watanabe. And I had no choice but to fully agree with Takeda-san after attending the presentation. It turned out to be lively when Prof. sang the song and people were moving in a circle, hands on shoulder, saying "Sanyou, Sanyou"; exactly as the real scene of the Festival. Very impressive indeed!

Thanks to UMEX for organizing that "explanation night" as it was called. Without it, I would have not been able to fully enjoy the Naked Man Festival - the unique and very impressive cultural event of Japan.

Reported by Ms. Thi Trung Hau Chu

夢っくす紹介



うおぬま国際交流協会 (UONUMA Association for Multicultural Exchange: 通称 UMEX「夢っくす」)

は、魚沼地域の国際化と地域住民の異文化理解を促進し、多文化共生社会へ向けた開かれた魅力ある地域づくりを目指し、2002年2月に活動を開始、5月26日に正式発足しました。

夢っくすの特徴は、留学生交流を地域づくりへと発展させることを構想し、設立の段階から地域と大学、そして大和町が協力連携していることです。2004年4月20日現在の会員数は、164名です。

トピック

1面 ●裸押し合い祭り ●夢っくす紹介

2・3面 ●誕生から2年、新たな展開への模索
●会員集計 ●活動日誌

4面 ●キッズ・サロンの定着 ●インド文化講座—ナマステ・インディア開催—
●Chat in English(英語で話しましょう)

5面 ●英語でEメールに挑戦 ●異国での出産 先輩お母さんたちの応援で“ユキちゃん”無事出産

6面 ●英会話プログラム紹介 ●ゼロから始めた日本語プログラム ●日本語会話パートナー訪問
●雪祭りを通じて広がった行政機関との連携—小出町・新潟県
●日本語研修会参加レポート

7面 ●国際留学生の雪祭り体験企画 ●浦佐毘沙門様の押合祭り

8面 ●一人一人の参加で創る夢っくす活動
●翻訳・通訳プログラム ●母国紹介シリーズ

誕生から2年、新たな展開への模索

町村合併後の 国際大学との交流と連携

大和町長 秋山武雄



国際大学が自然豊かな大和町に開校して既に21年が過ぎました。以来、大学からは、各種イベントや地域の祭、小学校や公民館の事業等々多方面にご協力いただいております。住民が留学生や外国文化に接する機会はある程度作られてきたのではないかと考えています。

情報化や国際化の波はこの地域にも及んでおり、異文化や留学生に対する地域住民の意識も徐々に変わってきています。こうしたことから、生活レベルで留学生と交流することや異文化を体験したい、或いは理解したいと考えるニーズが、相対的に高まってきているのではないかと考えています。また、国際交流関係団体の活動や活躍が、魚沼地域における異文化への関心や興味を一層高めたのではないかと思います。

さて、大和町は、本年11月1日に六日町と合併し、人口が約4万5千人の「南魚沼市」となります。この合併に際し、これまで大和町が取り組んできた「学園のまちづくり」の施策は新市になっても継承され、「国内交流事業」や「国際交流関係団体への支援」も従前と同じように継続されることが前提となっています。

今、全国で取り組まれている市町村合併の背景は、！財政制約と国と地方の財政構造の転換、〃地方分権改革の地域での推進、＃急速に進む少子高齢化、\$地域で出来ることは地域でという住民自治の流れ、の概ね4点に集約されると言われています。大和町と六日町の合併も、それぞれの項目に多少の軽重はあったとしても、基本とするところは同じだと認識しています。

市町村合併の背景である財政制約、地方分権、少子高齢化、住民自治の流れの中で、これからの「まちづくり」の主体と当事者は多様となり、自ずと行政が責任を持つ範囲も変わってくると思います。こうした状況にあって、お互いに助け合い、支え合うコミュニティや地域団体の役割と機能が、益々重要になってくると考えています。

近年は、コミュニティについても、地理的にも時間的にも開かれたコミュニティが必要で、従来の「地域コミュニティ」から「テーマコミュニティ」、インターネット上などの「電子コミュニティ」に至るまでを考える必要があると言われます。留学生の支援や国際交流、多文化理解等を主な目的とする地域のグループや組織は、こうした視点から見ると「テーマコミュニティ」に類似しているとも言えます。

国際大学と地域との交流・連携の必要性は、開校以来議論されてきたところですが、留学生との交流も含め、大学側と行政側で交流・連携についての認識に大きな相違は無いものと思います。また、新市にも「学園のまちづくり」は継承される場所ですので、行政の立場としては、今後の国際大学と地域の連携・交流について、情報交換を図るとともに、具体的な方法等の調査と検討が必要だと考えています。

民間の国際交流関係団体については、それぞれの活動の独自性、自主性を損なわない配慮が大切だと考えていますので、行政としてできる支援に努めることとなります。

国際大学はいかなる 地域貢献ができるか

国際大学学長 山澤逸平



昨年9月に浦佐に来てからちょうど半年になる。大学で35年余教えてきたが、もっぱら教育と研究ばかり担当してきた身にとって馴れぬ管理職で、学内のことだけで忙殺されている実態である。だが学外との交際も学長の大事な役割だから、いかなる地域貢献ができるか考えている。

幸い同時期に着任した高橋孝雄事務総長は米国松下勤務30年以上のベテランで、企業の地域貢献に豊富な経験を持つ。「軒を借りて仕事をさせてもらっているのだから」が口癖で、いろいろな知恵を出してくださる。国際大学の小林陽太郎理事長は経済同友会の代表幹事として「企業の社会的責任」の普及に努められた方である。つまり企業は利潤を上げて株主に貢献するだけでなく、社会の一員として役立たなければならぬというものである。私たちはそれをもじって「大学の社会貢献」といって、どのような地域貢献ができるか話し合っている。もちろん大学は企業と違って利潤を上げているわけではないから、金銭的な貢献はできない。

国際大学の本務は「国際人材の育成」である。300人弱の学生の80パーセントは外国人であり、20数名の外国人教師もいる。すべて英語で教えており、大学のカリキュラムや、試験の仕方、教授会まで米国式の、突出した国際環境である。それをなぜ日本でやるのか。東京や大阪でなく、浦佐でやるのか、を考えて行くと地域貢献の意義が見えてくるように思う。

国際人材、つまり世界のどこでも活躍できる若者は、グローバル化が進んだ今日どこでも求められている。今日英語が国際語だから英国、米国、オーストラリアなどの英語国の大学は世界中から大勢学生を集めているが、世界第2位の経済国となった日本もその一端を担い、国際教育に参加すべきで、それを通じて日本の国際人材をも育成できるというのが創立者中山素平氏の考えだった。その中山氏がこの自然環境に恵まれた浦佐にキャンパスを定めたのである。学生と教員がキャンパス内に住んで、集中して密度の高い教育ができるメリットは、これまで大都市の大学で教えてきた私は今実感している。

しかし創設時の国際大学はこの浦佐の地でまったく異質な集団だったであろう。地元の方々も戸惑われたことと思う。しかも小さな大学で自前の初等教育施設も医療設備も持たない。浦佐小学校は日本語のできない子供たちを暖かく受け入れ、大和町病院は意思疎通の不自由さをおして外国人患者の世話をしてくださる。外国人向けの日本語教育には地元のボランティアの方が助力してくださり、UMEXのようなボランティア組織は地元との交流を進めてくださる。国際大学が浦佐の地で存続できるのはこれら大勢の方々のおかげである。

そのお返しに何ができるか。やはり地域の国際化そのものに役立つことであろう。さらに地元経済の国際化、活性化に役立つ道はないか。今二人で思案しているところである。ぜひ皆様のお知恵を拝借したい。

夢っくす会員
だだいま
164名
(2004年3月20日現在)

夢っくす会員は、魚沼地区に在住あるいは勤務、在学している方々が中心ですが、20代から最年長78歳と年代的にも職業的にも多様であり、会員同士の交流も魅力の一つです。

大和町	48名	堀之内町	10名	十日町市	1名
六日町	名	守門村	8名	東京都	1名
小出町	37名	湯沢町	5名	津南町	2名
塩沢町	25名	長岡市	3名	所沢市	2名
湯之谷村	名	川西町	3名		1名
広神村	14名	小千谷市	3名		1名

少年の笑顔と可能性

ー外国人児童への学習支援と多文化共生を目指した地域づくりー

高津戸真弓

近年国際結婚による外国人の定住者が増加し、自分の国と違う文化に暮らす人々が様々な状況で言葉の壁、ストレスや不安を抱えています。それはどう解消されているのでしょうか？多くの家庭では相互の生活習慣や言葉の理解が足りず、様々な問題が発生しています。

定住化が進む中、高校への進学を望む子供たちも増えており、彼らへの日本語教育はますます重要性を増しています。現在私は中学校で中国から来日したばかりの14歳の少年に毎日3時間マンツーマンの日本語学習支援をしています。開始当初の私たちの教室は、母語で質問をしても会話が全く成立しない無口で内気な少年と、学習意欲の見られない彼の姿勢が理解できず、ただ一方的な見解（来日した外国人が皆日本語を学びたがっているという誤った認識）を押し付けている私とが生み出した、居心地の悪い空間でした。これまでに私は国際大学の留学生や、永住予定者の中国人女性た



受けました。言葉の障壁によって就学の道が閉ざされている実態や、また母国での理解力に優れている分、日本語が出来ないというコンプレックスに悩む彼らの存在にどれだけの認識があるのでしょうか。

来日したての彼らは日本での生活以上に長い自国の文化や精神論の中で生きてきたのです。それを変えることは不可能に近いことであるのに、私たちはこちらから歩み寄って相手の文化背景を理解しようともせずに、一方的に言語だけでなく文化や習慣までも日本人になることを強要させてはいませんか？

子供たちには可能性と同じ数の悩みがあると思います。現実の中から具体的な道を探し出すことができず、日本という場所と環境に安心感を持っていないために、感情が不安定になってしまった彼らには、「十分な時間を設けること、複数の人とふれあうこと、家庭と学校の連携」がとても重要です。

これから先彼らが日本の生活の中で差別されることなく、人格やアイデンティティを保持しつつ溶け込み、自分の意思で選び取り、自分の力で未来を築いていくことを心から願います。そしてこのような支援にささやかではあるけれど、携わることができて私自身が大きな収穫を得たと感じています。また一緒に学校生活を過ごす日本人の子供たちにとってかけがえのない経験であることに気づいてほしい。一方が押しつけるのではなく尊重しあえる多文化共生を目標に、地域と行政と教育機関が魚沼地域の国際化に向けて協力し合うべきではないでしょうか。

子供たちから笑顔と可能性を奪わない支援を目指して。



ちに日本語を教えた経験はありましたが、年少者への指導に対して無知でした。学習者によって年齢、学歴、考え方、日本語習得の目的などが大きく異なり、指導者は学習者のニーズにあった臨機応変な学習法の展開を求められます。14歳という多感な年齢期の子供への指導が困難で責任重大だということを知りました。

そういった悩める日々も彼の心を開かせることから試みて、意思を表現できる信頼関係の下に何がしたいのか、何を考えているのかを話してくれるまでになり、ようやく本来の彼の姿が見えてきて徐々に解消されていきました。今では、毎日少年らしい笑顔を見せながら自分のことをたくさん話してくれます。その気持ちをクラスメイトや家族にも伝えたいという欲求が芽生えてくると、日本語学習の動機も高まってくるのではないかと期待しています。その後はきっと子供ならではの吸収力の速さで日本語を習得するでしょう。彼の最大の問題は日本語学習の動機が充分でないこと。つまり、日本の生活に希望が持てずにいる部分にあります。

今後も増え続ける外国人登録者に対して、行政では日本語教室や適応指導などの受け入れサポートは不完全で、社会問題として顕在する事態にあまりにも無関心だという印象を



活動日誌

4月12日 インドネシア文化講座
4月26日 山菜とシシカバブのガーデンパーティー
5月31日 「ジャパニーズナイト」に協力
6月14日 第1回キッズサロン（絵本の読み聞かせ）
6月20日 母国紹介13：フランス（講師：アレックス）
6月22日 うおぬま巡りツアー実施（牛の角突きと錦鯉）
6月23日 から版ライター養成講座開催（講師：鈴木孝哉）
6月28日 異文化理解講座「未来を拓く子ども達への贈りもの」開催（講師：野山 広）
7月18日 夏期英語集中講座受講者の歓迎会
7月26日 韓国語講座
7月27日 新潟県車椅子友の会とボーリング&BBQ
8月 3日 茶道教室
8月31日 初心者のためのインターネット研修会

9月 4日 茶道教室
9月13日 新入生歓迎会（入寮サポートと町内ドライブ）
9月14日 新入生歓迎バーベキュー・パーティー
9月20日 キッズ・サロン（十五夜）
9月27日 稲刈りツアー
10月 3日 母国紹介14：インド（講師：アミタブ）
10月11日 冬物衣料のフリーマーケット
10月18日 キッズ・サロン（折り紙と絵本の読み聞かせ）
10月25日 デジカメ研修会（講師：対馬俊彦）
11月 2日 バスツアー実施（松本城と小布施町探索）
11月15日 書道教室開催
11月29日 キッズ・サロン（七五三）
12月14日 もちつき&百人一首で忘年会
1月 6日 交換留学生歓迎会

1月 9日 母国紹介15：中国（講師：ハイボ）
1月10日 インド文化講座「ナマステ・インディア」
1月24日 英文Eメール研修会（講師：武田里子・ウミド）
1月30日 日本文化紹介：節分（講師：桜井稀一郎）
2月 7日 小出町役場の要請を受け小出雪祭り前夜祭に参加
2月 8日 華道教室
2月13日 母国紹介16：フィンランド（講師：セッポ）
2月14日 新潟県の受託事業で六日町雪まつりに参加
2月27日 日本文化紹介：蒲田聖門神楽舞い祭り（講師：羽賀正通）
2月28日 キッズ・サロン（ひなまつり）
3月14日 第1回 Chat in English
3月23日 母国紹介17：モンゴル（講師：ツオルモン）
3月27日 会津若松へバスツアー
3月31日 キッズ・サロン（春）

活動紹介

キッズ・サロンの定着

小さなお子さんを抱える会員さんの提案で昨年6月に始まったキッズ・サロン。月一回のペースで、「梅雨」「七夕」「十五夜」「七五三」「ひな祭り」など四季折々の行事を絵本の読み聞かせを中心に開催しています。



① テーマは日本のお正月



② 留学生とカルタ取り競争

帰国子女を抱えて

私の息子はオーストラリアで生まれ、小学校高学年になって浦佐小学校に転校してきましたので、最初の一年間は全く日本語が分からない状態でした。それでも、テレビ・ゲームやファミコンで友達と遊ぶうちに徐々に日本語を覚え、日本人の価値観や社会の規律などの感覚を身につけてきました。しかし、漢字はなかなか覚えられず、大和中学に入ってから漢字が読めないため、英語以外はどの教科も最下位でした。そんな子を持つ私は、毎晩子供の教科書の漢字にひらがなをふる作業が日課となり、一時は自分の時間が全くなかったほどです。そんな息子も今年、無事に八海高校を卒業し、4月からは新潟市にあるデザイン専門学校に入学することになりました。今でも漢字は苦手ですが、私はようやく教科書にひらがなをふる作業から開放されそうです。振り返ってみると、日本語が不十分な子どもには、初期段階で親が意識的に日本人の子どもたちと交わる機会を作ること

が大切です。まず、日本語の会話が出来るように子どもの好きな友人（できれば、きちんと日本語を話せる友だち）を、「テレビ・ゲームで遊ぼう」と（親が意識的に）家に呼んでやり、話し言葉を自然にマスターさせるようにし、次に漢字の読み方や書き方を毎日1時間でも付き添って教えることが大切だと思います。今は、日本語も英語もバイリンガルな自慢の息子です。これから少子高齢化時代を迎える日本社会では、帰国子女だけでなく日本語のできない外国人が、日本経済を支える大事な労働力となるでしょう。そうした状況に対応する学校教育のあり方も、社会のニーズに適応した形に徐々に改革していかなければならないでしょう。私の子供が帰国した当時と比べると、大和町の外国人児童・生徒への対応や地域社会の支援体制は進みましたが、今後さらに関係機関の連携が進むことを期待しています。

堺 正寛

インド文化講座 —ナマステ・インディア開催—

1月10日、大和町「働く婦人の家」を会場にインド文化講座を開催しました。遠く上越市や栃尾市からの参加者も含め50名を超える大盛況でした。インド料理の調理実習から始まり、映画のクリップをはさみながらインドの文化、産業、歴史、観光などについて、留学生の熱心な発表に聞き入りました。この講座の特徴は、留学生と夢つくす会員が共同プロジェクトとして、企画し実施している点です。こうした取り組みを通じて、「支援し」「支援される」関係を超えたパートナーシップを築いて行きたいと考えています。次回は、ベトナム講座または中国講座の開催を予定しています。



インド文化講座へのお礼状
一月十日、夢つくす留学生によるインド文化講座に参加させていただきました。ありがとうございます。いただいた資料を帰ってからゆつくり読みました。うめま国際交流協会会長・井口義夫さんの夢つくす誕生から一年の経事を見まして、ぜんぜん知らなかった夢つくすの内容を把握することが出来ました。たまたま、湯本さん、森沢さんの誘いを受けて参加させていただき、会場が近かったこともありがたかったです。
インドカレーは激辛と想像していましたが辛くはなく、香辛料との調和もよく大層美味しかったです。実は、昨日、湯本さんが「夢つくすニュース」かわら版「月号」を持ってきたので、あの日、楽しかったことを話しました。私たちの写真も出て、何とも嬉しくて子どものように喜びました。
民族衣装のシャリーさんの司会でお話を聞きながら、インドの文化を学べました。大きな収穫でした。私は若いときから人が大好きで、いろんな所で、いろいろな人と交流を重ねて参りました。
昨年十二月中旬、オーストラリアからジェニーという可愛らしい高校生がホームステイで我が家へきてくれました。孫とジェニーの話はとても楽しそうでしたが、私は専らジェスチャーでの会話、一週間の短い期間でしたが、別れるときは家族に笑われるほど涙を流しました。思いがけない一月十日の外国の人との出会いと昨年暮れに家に来てくれたジェニーとの出会いは、また私の出会いの、一頁に新しい分野の交流として貴重な体験として受け止めています。
本当にありがとうございました。夢つくすの益々のご活躍を期待しています。
二〇〇四年 二月二日 清水スイ子(大和町)



① 素敵なサリを着たヴィーナさんを囲んで。



② 最年長参加者89歳の清水スイ子さんとお友達の湯本トミコさん、森沢澄子さんを囲んで。

新企画 Chat in English (英語で話しましょう)

留学生と夢つくす会員の交流を促進するためには、英語と日本語の言葉の壁を双方の努力で乗り越える仕掛けが必要です。日本語プログラムのカウンタープログラムとして、今年1月、英会話チューター・プログラムが誕生しました。チューター料金は1時間千円で、希望者は1名から3名のグループで申し込みます。このプログラムの月例会がChat in Englishです。3月14日の第1回例会では、留学生が英語でヒントを出し、日本人が答えを記入する英語のクロスワードに取り組みました。チームごと

に回答スピードを競うことから、徐々に会場はヒートアップ。言葉で伝えきれないところはジェスチャーで補うなど、終始笑いの絶えない楽しい会になりました。



③ 「南米で一番細長い国は?」「うーん・・・」

英語でEメールに挑戦

留学生との連絡にEメールは欠かせません。研修会で例文を参考に英語のEメールに挑戦しました。

●写真左：講師のウミドさん
写真右：外国語担当の柳瀬さんと、サロン担当の坂西さん。
「少しくらい間違っても分かってもらえるよね。」



異国での出産 先輩お母さんたちの応援で“ユキちゃん”無事誕生

高波恵子



きっかけは、金曜日のサロンでの何気ない会話でした。私が日本語の会話パートナーをしている留学生の奥さんから子どもが出来たといひ、「異国での初めての出産は不安だろう」、「帰国するまでの半年間、子育てで私たちに手伝えることはな

いだろうか」と、会員の皆様にメールを送りました。

おかげ様で、国際大学の冬期休暇前に新生児用品が集まり、ご主人に渡すことができました。入院中は病院で通訳をしてく

ださった方もいます。協力してくださった方々、忙しい中ありがとうございました。出産は12月31日で予定より早かったのですが、母子共に元気でよかったです。

出産後1ヶ月は母体の回復が大事なので、曜日ごとに訪問する人を決め、代わる代わる毎日ご自宅を訪問し、育児の手伝いをしました。具体的には沐浴の補助、買い物代行、育児の助言、薬の使用法の説明、食料の差し入れ、病院への送迎などでした。

私が訪問したときはいつもご主人が在宅で、赤ちゃんの世話を手伝っていらっしゃいました。コラップさんにとっては一番頼もしいサポーターです。ご夫妻が、私たちのことを思い出せるようにと、お子さんを「ユキ」と名づけたといひとても嬉しく思いました。魚沼はこれから美しい季節が始まります。ユキちゃんも暖かい日差しを受けて世界が広がることでしょう。



英会話教室紹介 柳瀬陽子

国際大学の学生を講師に、会員向けの英会話教室を開催しています。会員が受講しやすいように曜日と時間を変えて、昼と夜に各1～2講座開講しています。受講者は10代から60代まで幅広く、最初は恐る恐るの受講者も回を重ねる毎にリラックスして楽しんでいるようです。単に英語を学ぶだけでなく、英語を通じていろいろな国の文化も学べるプログラムにしたいと考えています。今のところレベル別のクラス編成

は難しく、初級者向けです。よりレベルアップしたい人は、英会話チューター・プログラムをお勧めしています。

ゼロから始めた日本語教室 佐藤八重子

ゼロの状態というのでしょうか、2002年7月、私たち（日本語交流員）は事前の話し合いや講習もないまま第1期の日本語クラスを始めました。このクラスは時間帯が日中だったことと、留学生の家族が主体で時間的に余裕があったためか、受講者はパーフェクトに出席してくれました。また、受講者が同じレベルであった事が幸いし、わずかな期間に皆とても上手くなりました。その中の1人は、個人的に勉強したいと、わが家に週1回来て生の会話も楽しみ(?)しました。

これまでに失敗もありました。受講者の日本語を学ぶ目的や日本語のレベルの違いから、私たちの「ひらがなを覚えて下さい」という指示が、ある学生にはとても負担に感じられたらしく、学生のプライドを傷つけてしまったのです。そのときは、深く落ち込みました。

国際大学での日本語学習の環境は、媒介語（英語）が使

える強みがあります。一方、日本人に嫁いだ中国の方に教えたときは、まったく英語が使えず、日本語と中国語の会話帳を使つての指導という初めての経験もしました。中国語の分かる会員に助けられています。でも、コミュニケーションには言葉だけでなく、目から、耳から、そして手のジェスチャーや声の強弱などたくさん手段があります。何とか伝えられるものです。回を重ねるごとに、受講者と日本語で伝えられる内容が増えていくのが、日本語交流の楽しさです。

クラスが終わった後も時々サロンに顔を出してくれる学生もいます。国へ戻った1期生の人から「日本語を忘れそうだから、遊びに来て」とメールがきます。多くの人や国との出会いで、私は今、世界中を旅する夢を見えています。

日本語会話パートナー訪問 金井さとし

「車が無いので自宅に来てくださるチューターをお願いできませんか?」というホサンさんの依頼。「住所が金井さんのお宅に近いのですが」とお願いすると、「隣のアパートに住んでいるご夫婦ですね。」ととんとん拍子にパートナーが成立。

金井さんは若い頃から地理が好きで、英語の勉強もコツコツ続けてこられました。浦佐教会で知り合った留学生のホストファミリーになったり、銀行の窓口で困っている留学生の通訳をしたりと、夢つくすが誕生する以前からの留学生サポーターです。

「バングラデシュのお料理をご馳走していただいたり、とて

も楽しいです」と金井さん。「金井さんから盆栽のお話を伺ったり、大学では経験できないことを勉強できます」とホサンさん。和やかで素敵な交流を拝見させていただきました。



雪祭りを通じて広がった行政機関との連携 —小出町・新潟県

町村合併のため小出町としての開催が最後になってしまう「小出雪祭り」への参加依頼を受け、2月7日留学生とともに参加しました。

また、2月14日には新潟県六日町地域振興事務所から「外国人観光客受け入れ体勢整備事業」を受託して、六日町雪祭りに留学生約70名と共に参加しました。この事業は、国際化が進む中で魚沼の新たな観光戦略を検討するため、留学生の視点から雪

祭りの感想をまとめて欲しいという依頼でした。

国際大学に学ぶ50数カ国からの留学生は、魚沼を広く世界に広報するうえで貴重なリソースです。しかし、彼らが魚沼をより良く深く理解するためには、通訳やコーディネーターが必要であり、今回夢つくすがその役割を果たせたことを嬉しく思います。



ラーさん(ラオス)の感想

It was very nice festival. I like the castle very much and also the shows. I was wondering how hard the local people built the beautiful castle from a very cold snow. I was impressed by the effort of the local people very much. They built it by hearts and just for the festival night. I feel glad to have chance to see and if next year they will have it again I will go there again. (Ms. Wannila Thongchan)

大変すばらしいお祭りでした。私は雪の城とショーが気に入りました。大変冷たい雪からあそこまで美しい城を作り上げるため、地元の人たちはどれほど苦勞をされたのでしょうか。心をこめ、祭りの夜のためだけに作るという、地元の人々の努力が印象に残っています。この祭りを見る機会があつてとてもよかったですし、また来年も開催されるなら、ぜひまた行きたいと思います。(ラーさん/ラオス)

ホウンさん(ベトナム)の感想

I enjoyed the festival very much. I appreciated the opportunity to have a better insight of the Japanese culture, especially the culture of local people in various snowy regions around Japan. It was my first time and a wonderful experience for me to gather with friends in a kamakura, around the fire, enjoying "mochi" and "sake" and sharing in our "kimochi". I also got excited at the performances on the stage, especially the Japanese traditional dances, music and costumes. I was impressed by the sculptures made of the snow (the house, the car, the kamakura, etc.). I was happy with the festival though the rain and chill that night made me feel so frozen! (Ms. Huynh Mai Houng)

雪祭りは大変楽しかったです。日本の文化、中でも雪国に住む人たちの文化ををより深く知る機会を設けてくださった皆さんに感謝します。初めての体験でしたが、友達とかまくらに入ったり、焚き火の周りでお餅やお酒を、皆の温かい気持ちと共に楽しむことができ、大変すばらしい体験でした。また舞台での様々なパフォーマンス、特に日本の伝統的な踊り、音楽や衣装にも興奮しました。家、車、かまくらなどの雪像も印象に残っています。凍えるほど寒い雨の夜でしたが、それでもお祭りは大変楽しかったです。(ホウンさん/ベトナム)

日本語研修会参加レポート 大平雄一郎

自分は今年夢つくすに入ったばかりです。今回初めてベトナムの方々と一緒に長岡で開催された研修会「日本語の教え方の基本とコミュニケーションのコツ」に参加させていただきました。会場には大勢の方々が来ていて、最初はとても緊張しました。

始まってみると先輩たちがとても丁寧で親切で、終始「日本語を覚えてほしい人の身になって」という教え方が印象的で、大変参考になりました。日本語を教えるということだけでなく、まず相手とのコミュニケーションがとても大切なのだとということも学びました。

自分たちの母語である日本語を、教えるという立場で勉強し直すと、日本語の意味、使い方など、自分にとっても勉強になることばかりでした。二日間は実際に在日外国人の方々と接しての交流会があり、習ったことを実践という形で経験でき、とても内容の濃い研修会でした。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



国際大学留学生の雪祭り体験企画

新潟県六日町地域振興事務所
地域振興課長 小島 隆夫

南魚沼では、2月の声を聞くと、雪を題材としたイベントが各地で開かれます。六日町の「雪まつり」は、厳しい雪の季節を過ごした人達が、互いの心のふれあいを大切に、手作りのぬくもりの良さが直接伝わって来るようなイベントとして、地域に定着しています。

今年の「六日町雪まつり」のメインステージは、NHKの連続テレビドラマ「こころ」に登場した朝倉医院が雪像になる。そんなこともあって、この「六日町雪まつり」を、外国の人達からも是非とも体験してもらい、どんな印象や感想を持たれるか知りたいと思うようになりました。幸い、地元大和町には国際大学があり、世界各国から、多くの留学生が来ておられる。そこで、国際大学の留学生の皆さんに参加を呼びかけ、体験ツアーを企画してはどうかということになりました。

新潟県では、これまでのスキーを中心とした冬季観光だけでなく、体験交流型の観光についても力を入れてきました。私の所属する六日町地域振興事務所でも「よってがっしやい四季のみなみうおぬまへ」をキャッチフレーズに、体験観光交流への展開策を模索しています。

しかし、この国際大学の留学生による「六日町雪まつり」体験ツアーは、外国の方々を対象にした、初めての企画であり、実行に移すにはさまざまな課題をクリアする必要があります。机上で考えるだけでは事態は先に進みません。勸進元の「六日町雪まつり実行委員会」に体当たりすることになりました。そこで、この企画をお話したところ「うおぬま国際交流協会」

でも同じような動きがあることを教えて頂きました。話しはトントン拍子で進み「外国人観光客の受け入れ態勢整備事業」の名称のもとに、新潟県の地域振興戦略事業調整費を使い「うおぬま国際交流協会」に事業委託することで、この企画が実現することになりました。

留学生の感想の一部分をご紹介します。「このような興味深いイベントに参加するのは初めてでした。今まで入ったこともない、かまくら、雪で出来た舞台、侍の演技などに非常に感銘を受けました」ヒュイ・ヴァサロさん（カンボジア）。「私は、出来れば毎年この祭りに参加したいと思います。舞台演技と花火も大好きです。・・・全体として、地元の人達が参加者に喜んでもらえるようなイベントにしようと最大限やっていると感銘を受けました」カガニ・マリコヴさん（アゼルバイジャン）。「雪まつりでは、文句なしに大変楽しく過ごすことが出来ました。自分にとっては、このようなお祭りに行き、雪や冬に関する地元の人達の伝統行事を体験するのは初めての経験でした」ミハイ・カタリン・イサコヴィチさん（ルーマニア）。

寄せられたアンケートから、留学生の皆さんが、私たちの思っている以上に、日本を知りたい、地域と交流したいと感じていることが伝わってきました。こうした留学生の思いを支えてきた「うおぬま国際交流協会」のこれまでの活動に敬意を表するとともに、協会の活動が3年目に入り、ますます国際交流の輪が広がって行くことは、本当に喜ばしいことです。これを機会に、外国人観光客の受け入れ態勢についても、官民一体となって取り組んで行くことが必要不可欠であるとの思いを強くしました。

浦佐毘沙門様の押合祭り

「ささらすりの唄」

当月三日に年男が参ったりな
立ったこそ道理や門の松がまっさるわ
まんがわらに手かけて春が来たとのぼら
わいらに着しようて白い簪の笠
黄金花咲け四つの角のように
とうむこそ道理や実がいるとうて
立ったこそ道理や米が降るとて

押し合い祭りのクライマックスで歌われる「ささらすりの唄」を留学生や外国人にもわかるようにと国際大学・渡辺慎一教授が英訳して下さいました。



📍 ささらすりの魅力を熱く語る渡辺教授

A song in praise of the blessings of the god Bishamonten

It is March 3rd and the young and the faithful
gather in the precincts
To praise the blessings of the god Bishamonten

Like ever - green pine trees at the gates
May they remain young and strong

They are burnishing harrows
And eager to plough the fields in the spring to
come

Let them wear the white sedge hats
We have made for them

May rice plants flower with golden petals
At every corner of rice paddies

May they bend with grains
At the top of their stems

May their harvest be as plentiful as snowflakes
that fall from heaven

(Zazan Zaan, the noise of the waves at the
coast, Zazan Zaan.)
(translated by Watanabe Shinichi)

一人一人の参加で創る夢っくす活動

会長
井口 義夫

現在、夢っくすには160名を超える会員がいます。「留学生交流を通じて多様な価値観を学びたい」という共通点はあると思いますが、具体的に一人一人の会員がこの会で実現したい思いは異なります。

一例をあげれば、「英語が上手になりたい」、「外国人と友達になりたい」、「日本の伝統や文化を紹介したい」、「日本語のサポートをしたい」、「生活上で困っていることがあれば手助けしたい」等々さまざまです。

そうした会員の思いを実現するために、夢っくすではさまざまなプログラムを提供しています。活動主体は部会で、サロン部会、イベント部会、広報部会、研修部会、多言語部会、事業部会の6部会があり、運営委員会が全体の調整を行っています。

世界50ヶ国の留学生を通じて多様な文化や価値観を学ぶことのできる環境を活用して、魚沼の地から世界へとネットワークを広げていきましょう。言葉もアクションもキャッチボールです。投げかければ相手も返してくれる双方向の活動を目指して、私たちと一緒に活動を始めてみませんか？

入会案内

留学生交流を通じて、地域の国際化や多文化共生社会へ向けた魅力ある地域づくりを目指す夢っくすの目的に賛同される方の入会をお待ちしております。年会費は個人会員3,000円、家族会員1,500円（個人会員の家族）、法人及び団体会員は1口1万円以上任意の口数です。入会は随時受け付けておりますので、下記の郵便局口座に会費をお振込みいただくか、事務局までご連絡ください。

●口座番号：00550 - 7 - 74672

●口座名称：うおぬま国際交流協会

翻訳・通訳プログラム

<http://umex.ne.jp/>



夢っくすでは新たな企画として、国際大学の学生と翻訳・通訳をアレンジするプログラムを試行中です。六日町雪祭りでの留学生と参加者との通訳サポートを手始めに、環境問題の国際会議で「被覆型最終処分場の採用と課題」を発表する広域事務組合担当者の発表原稿の英訳も引き受けました。料金設定など今後詳細を決定しますが、ビジネス文書や原稿翻訳が必要な場合は、夢っくす事務局までご相談下さい。



1月は食文化を中心にハイボさんによる中国紹介を開催。

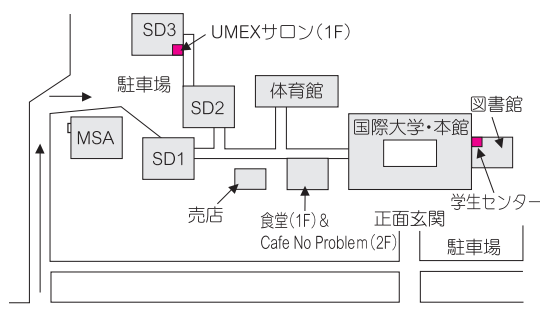


2月はオーロラを中心にセツボさんがフィンランド紹介を紹介。



3月は自然と共存する生活様式を中心にツオルモンさんがモンゴルを紹介。

★UMEXへの入会は随時受け付けています。UMEXにご関心のある方は、電話またはファックスで事務局まで資料をご請求ください。



UMEX

うおぬま国際交流協会

〒949-7277

新潟県南魚沼郡大和町大字穴地新田777番地
国際大学内 夢っくすサロン(1F)

TEL: 025-779-1439/025-779-1520

FAX: 025-779-1180